

まちの話題

サルから農作物を守るために



講師：奈良県農業技術センター所属
高原農業センター所長 井上 雅央氏

4月8日コミュニティ・プラザにおいて『みんなで取り組む獣害対策』と題して、農作物をサルから守る講演会が開催されました。

獣害対策で必要なことは、まず集落みんなで楽しくサルの習性について勉強すること。そして、サルの学習能力に追いつかれないよう、どんな柵でも時間とともに変化させることだそうです。サルが食べても誰も怒らないエサの放置は、餌付と同じだということも忘れずに！

50周年であることを記念し、今年度製品化したものに限りプレミアムシールを貼り付けることも決定しました。今後



水自慢1110白谷

お問い合わせ
総務課新しいまちづくり係
TEL 62 9328
9328
FAX 62 4481
@-mail >
shinmachi@town.fujimi.nagano.jp

富士見町の水環境を守りながら豊富な水資源を活用し、町の活性化を図ることを目的に、天然水の製品化を研究するための役場職員チーム「ナチュラルミネラルウォーター製品化プロジェクト」が立ち上ってから4ヶ月、ついに信州富士見高原の天然水が製品化されました。名前は「水自慢1110白谷へみずじまん いちいちいまる しらや」です。おいしい水は富士見町民にとって誇りであり自慢であること。また、この原水が富士見町白谷溪谷標高1110mの石灰岩洞窟から湧き出ていることから、このネーミングに決められました。種類はペットボトル500mlと2,000mlの2種類で、ラベルは富士見町出身のアートディレクター「新妻久典氏」が「ふるさと富士見町をさらに元気にしよう!」と、無償でデザインを引き受けてくださいました。富士山・八ヶ岳・南アルプスを一望できるこの町ならではのロケーションをデザインしたラベルは、この町で生まれ育った新妻氏だからこそイメージすることのできたすばらしいイラストです。今年が町制施行50周年であることを記念し、今年度製品化したものに限りプレミアムシールを貼り付けることも決定しました。今後

は、新たな特産品として住民の皆様にも愛され親しまれるよう、町や友好都市・姉妹町で開催される各種イベント等でPR活動を展開し、「地域限定」商品として町内で販売することも検討しています。また、売上金は水環境保護のための活動費用として還元し、おいしい水を将来に渡って守り、子孫まで伝えるためのしくみについても研究します。新しいまちづくり係は、ひきつづき地域資源を活かしたまちづくりに向けて具体的な取り組みを研究してまいります。

このコーナーに関するご意見・感想をお寄せください。

新園舎で入園式

このほど本郷保育園の新園舎が外構工事を残しほぼ完成となりました。4月4日には雪景色の中での新園舎で入園式が行なわれ80名が入園しました。

全町では0歳児のたまご組から年長の青組まで375名が入園しました。みんな仲よく元気に！



新まち通信

明日のためにV

信州富士見高原の天然水「水自慢1110白谷」できました。

は、新たな特産品として住民の皆様にも愛され親しまれるよう、町や友好都市・姉妹町で開催される各種イベント等でPR活動を展開し、「地域限定」商品として町内で販売することも検討しています。